

## 【論点 8】人と鳥獣の関係について

## 1. 現状と課題

今後、鳥獣種によっては、農林業被害や生態系被害等への対策として、多くの捕獲を行い、積極的な管理を実施する必要がある。このため、効果的な対策の実施に向けた体制整備、制度改正及び予算確保等を図るために、鳥獣管理の意義について国民に理解してもらい、協力を求めていく必要がある。

また、人は、古来より暮らしの中で、鳥獣を狩猟して利用したり、鑑賞したりしてきたが、都市化や過疎化の進行により、多くの人にとって、鳥獣は暮らしと遠い存在になってきている。一方で、中山間地のみならず、地方都市においても鳥獣による生活環境被害も深刻化しつつある。このような状況の中で、人は鳥獣とどのような関係を作っていくべきか、将来的な課題として改めて考える必要があるのではないか。

## 2. 検討の方向

(1) 今後、シカ等については多くの捕獲を含む積極的な管理が必要となる。

管理にあたっては、中山間地では住民も含めた体制を構築する必要があり、地方自治体でも相当の労力、予算を必要とすると考えられる。また、必要な捕獲とはいえ、嫌悪感を抱く人も出てくると考えられる。

鳥獣管理を積極的に推進するためには国民の理解が不可欠であるが、どのような方策、工夫が考えられるか。

(例)

- ・ 多面的な（国土保全、自然環境保全、水資源の確保、生活の安全等）観点から、鳥獣管理の必要性を普及啓発
- ・ 鳥獣被害に関して、科学的データに基づき情報発信（視覚に訴える等の工夫も重要）
- ・ 学校教育現場における教材の提供 等

(2) 人の暮らしの中での鳥獣との関係は、

- ① 狩猟して肉や毛皮を利用する
- ② 有害鳥獣として捕獲する、追い払う
- ③ 傷病鳥獣として救護する
- ④ 愛玩のために飼養する
- ⑤ 伝統的な祭礼行事等に利用する
- ⑥ 鑑賞する（バードウォッチングやエコツアーリズム）

等がある。近年積極的に行われているのは②であり、①については旧来の狩猟は大きく減少、③は感染症等の懸念が指摘され、また、④は廃止する方向で検討を進めている。

一般の暮らしの中での鳥獣との接点が極めて少ない状況は、積極的に改善すべきか、また、可能か。新たな関係についての検討を今後進めるべきか。